

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物

- 2面 歴史認識と東アジアの平和フォーラム
- 3面 アジア・アフリカ人民連帯機構
- 4面 日本平和大会 in 三沢
- 5面 現代インド政治を学ぶ講演会
- 6面 ラオス報告会
- 7面 列島 AALA
- 8面 私と AALA

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2016年12月1日 No.677



世界は連帯して
テロの危機とたたかい
平和的解決を！



アジア・アフリカ人民連帯機構 (AAPSO) in モロッコ

ステージ左・AAPSO ハディディ会長、右・ヌリー事務局長

10月19・20日、モロッコの首都ラバトで「第10回アジア・アフリカ人民連帯機構(AAPSO)大会」は、Together against Terrorismのスローガンを掲げて開かれ、17カ国の代表が参加しました。日本AALAからは野本久夫事務局長が、沖縄米軍基地建設反対、国際署名の展開など日本AALAのたたかいについて発言しました。

10月21日には韓国済州島で「第15回歴史認識と東アジアの平和フォーラム」が開かれ、日本AALAから田中靖宏国際部長がパネリストとして参加。東アジア情勢、安倍政権と国民のたたかい、ASEAN、連帯の広がりなどを発言しました。

(詳細は2・3面)

平和の秩序づくりを対置して

国際部長 田中靖宏

歴史認識と東アジアの 平和フォーラム・済州会議

韓国の済州島でひらかれた第15回「歴史認識と東アジアの平和フォーラム・済州会議」(10月20日から23日)からの招待で、日本 AALA 代表として参加してきました。歴史の歪曲をただし、東アジアに平和を実現することをめざして日中韓の市民・教育者、研究者が集まって2002年から毎年続けられている会議で、今年は済州4・3平和財団の行事と並行してひらかれ、平和の基礎としての歴史をとりわけ意識させられるものでした。

私が参加したのは、「揺れ動く世界秩序、その中の東アジア」をテーマにした第一セッションです。日本 AALA がとりくんでいる東アジアの平和共同体をめざす運動を紹介し、先の参院選で改憲勢力に3分の2確保を許したとはいえ、違憲の新安保法制に反対する市民の運動や野党連合など、平和と民主主義をめざす新しいたたかひの展望が生まれていることを報告しました。そのうえで私は次の2点を強調しました。

1つは、運動のなかで私たちにとって大きな挑戦課題になっているのが、安倍政権が軍事拡張の口実にしている「東アジアの緊張」に、どう立ち向かうかという問題です。私は、北朝鮮の核実験やミサイル開発に加え、南シナ海問題や核兵器禁止条約をめぐる中国指導部の覇権主義的な行動が周辺諸国に大きな懸念を呼び起こしている事実を指摘し、安倍政権がふりまく「中国、北朝鮮脅威論」をウソといっても国民に信頼されない状況がある。そのことが日本の平和運動に大きな困難をもたらしていると率直に提起しました。実際、



いますめている「戦争するな、どの国も」の国際署名でも、「平和の共同体など夢物語」「本当にできるの」という反応に多々直面しています。

従って私たちは、北朝鮮の核問題も中国の海洋進出も、軍事強化の対応ではなく、平和的な話し合いと緊張緩和による解決に現実的な可能性と根拠があることを示し、この可能性を安倍政権が真剣に追求していないことを批判していくことが重要と考えます。北朝鮮でいえば、国連安保理の制裁決議にそって国連に報告している国は59カ国しかありません。また北朝鮮は160カ国以上と国交をもっており、私たちが考えているほど国際的に孤立はしていない。実際、遠く離れた中東やアフリカ諸国から見ると、弱小の北朝鮮を米日韓の強大国がよってたかっているようにみえるわけです。安倍政権が米国の核の傘に頼って真に核廃絶の立場にたっていないことも説得力を欠いています。北朝鮮の脅威に直接さらされている日本こそ、もっと自主的な立場にたって6カ国協議の再開にイニシアチブをとれと要求していくことが大事だと考えます。

2つ目の強調点は、アジアの状況を世界の動向と結び付けて広い視野でみることの重要性です。これは先の全国理事会でも論議になりました。いま世界は、米国の相

対的な力が後退し、中国が間もなく世界一の経済大国になるなど、多極化にむかって秩序の再編過程にあります。グローバリゼーションで各国の相互依存が高まり、国と国との戦争は割に合わなくなっています。確かに各地にテロや紛争は絶えないけれど、大きな流れは文化や社会、政治体制の違う諸国が対立ではなく協力し合う方向になっています。実際、軍事同盟ではなく、仮想敵をもたずすべての国が平等の資格で参加する地域の共同体が地球的な規模で発展しています。とりわけ東南アジア諸国連合(ASEAN)は、焦点の南シナ海問題でも中国の進出と粘り強く向き合って平和解決の努力と続けています。東アジア規模で各種の対話の枠組みを発展させ、内政不干渉と紛争の話し合い解決を決めた東南アジア友好協力協約(TAC)を基礎に、東アジア規模の「不戦」体制の構築を視野にいれています。これらは、軍事力を背景に中国を封じ込めるためASEANに接近しようとする安倍政権の思惑とは大きなズレがあります。

済州会議での報告では、こうした流れを紹介しつつ、平和秩序の構築にむかう各地域の動向をもっと詳細に研究、調査して確信にするとともに、同じ志で努力しているAALAとの連帯にいっそう力をいれたいと述べました。

アジア・アフリカ人民連帯機構 (AAPSO) 第10回大会に16カ国参加

沖縄新基地、安倍改憲反対など 日本のたたかいを紹介

事務局長 野本久夫

AAPSO 書記局は今年2月、スローガン” Together against Terrorism” を掲げて大会をひらくことを各国連帯委員会に呼びかけました。

呼びかけは、「国際テロリズムがこの大会の主要な問題のひとつであり、テロの世界的広がりや脅威が例外なくすべての国々の課題になっている。テロ問題を解決する国際的運動はアジア・アフリカでの人道、悲劇的難民危機への重要な問題であること、パレスチナ問題に注意を払わねばならず、その問題解決のために国際的な共同体に呼びかけたい。世界はテロの危機とたたかう人びとの連帯と統一に基礎を置く未来に向かって急速に動いている。AAPSO はアジア・アフリカのたたかう勢力がモロッコでの大会成功のために貢献することを求める」という内容でした。

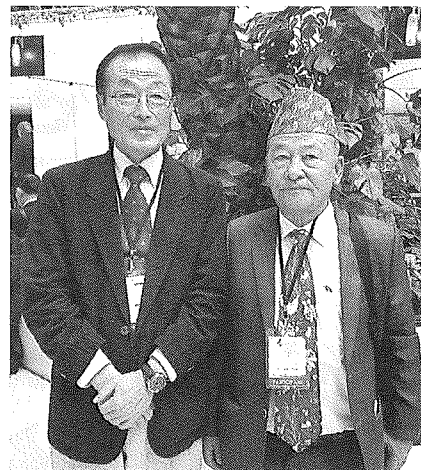
AAPSO 第10回大会はモロッコの首都ラバト市のホテルラバトで開催されました。ロシア、パレスチナ、レバノン、イギリス、イラク、インド、エジプト、スーダン、ネパール、チュニジア、バングラデシュ、スリランカ、ベトナム、日本、モロッコが参加しました。モロッコ平和連帯委員会は、大会の準備はもとより会議期間中もよく動いてくれました。

すべての国の代表が発言し、各国でのテロとのたたかい、解決すべき課題である占領、貧困、女性差別、経済的な危機などに対するとりくみを述べました。

パレスチナ代表はイスラエルの占領、入植地建設、暴力による犠牲に反対し、1967年の状態の戻

し、話し合いの続行を訴えました。多くの各国代表は、テロリストがうまれる原因は、国の社会的経済的危機や独裁政治などにあるとし、そこからうみ出される貧困、差別、テロの犠牲に対して連帯してたたかうことを述べました。日本のマスメディアでは、テロとたたかう各国の人びとの運動がほとんど報道されないなかで、各国の運動に注目し、連帯の必要を痛感しました。

日本 AALA の発言は最後になりました。今年7月の参議院選挙での野党統一候補11人の勝利の意味、安倍内閣の改憲策動、沖縄米軍新基地反対、TPP 反対などのとりくみを述べ、昨年実施した国際シンポジウムや東アジア共同体を求める国際署名活動の展開を紹介しました。また、①日本



ネパール AAPSO 会長と

AALA 紹介②沖縄基地問題関連文書50部を持参し、受付に置きましたが、すべて受け取られました(9月末のNAM Summit: 非同盟諸国首脳会議で配布したのと同じ英文の文書)。

私ははじめて AAPSO 大会に参加しましたが、各国の代表と交流しました。ベトナム、ネパール、スリランカ、バングラデシュ、モロッコ、イギリス、エジプトの代表とは、運動を紹介し合い、話題をともにし、知り合うことができました。2日間の会議でしたが、日本 AALA がよく知られた組織であることも実感しました。

AAPSO 会長、事務局長の 開会あいさつ (要旨一部)

世界の多くの地域、とりわけアフリカとアジアでの我われのたたかいは、20世紀、あるいは21世紀はじめのテロとは異なっている。テロは国を蝕み、人びとを絶滅させ、宗教をまとい、あるいはそれ

を隠してファシストの支配を押し付けるものである。

(中略) 我われは AAPSO のメンバーとして、暴力的過激主義、非寛容、差別とのたたかいを通じて、寛容、平等そして平和的共存を促進することによって、テロとのたたかいで本質的な役割を果たしつづけるべきであろう。

AAPSO とは

アジア・アフリカ人民連帯機構 (AAPSO) は、1955年末カイロで開かれた第1回アジア・アフリカ諸国民会議で、反帝・反植民地主義を掲げ、アジア、アフリカの民族解放運動を推進する常設の人民連帯組織とし

て正式に設立されました。1961年の第1回非同盟諸国首脳会議からオブザーバー資格を与えられて参加しています。書記局がカイロにおかれ、日本 AALA は設立時から書記局のメンバーに選ばれています。

憲法を生かし、アジアの平和をどうつくるか



2016 日本平和大会 in 三沢

2016年日本平和大会は、10月22日、23日に安倍政権によって南スーダンへ派遣される自衛隊員がいる青森県三沢市で開催されました。

開会集會では、元自衛隊員の末延隆成さんと自衛官の息子をもつ母親、平和子さん（仮名）が登壇。末延さんは「自衛隊員は日本の国民を守るために自衛隊に入ったので、外国に出かけて戦争したいという隊員はいない」「南スーダンは戦場になっていて、軍隊なのか民間人なのかも区別ができない。自衛隊員が派遣されれば、必ず殺すことになる。戦闘に巻き込まれて戦死者がでる危険もある。最初に派遣される自衛隊員を青森県から出してはいけない。戦争法にもとづく新任務『駆け付け警護』に反対する」と訴えました。

大会報告を日本平和委員会の千坂純事務局長がおこない、「南スーダンへの自衛隊派遣を止めさせ、戦争法廃止、憲法守れ」の全国の運動を交流し、たたかいを発展させようと呼びかけ、「沖縄東村高江のヘリパッド建設工事に反対し、米軍基地のない沖縄と日本をめざす運動を全国に広げよう」と述べました。

沖縄・高江からの報告につづいて、東北3県と東京、埼玉、京都などから「基地はいらない」のリレートークがありました。

23日には各会場で分科会やシンポジウムがひらかれました。「憲法を生かし、アジアの平和をどうつくるか」をテーマにひらかれた国際交流シンポジウムでは、南シナ海での中国による領有権問題や北朝鮮の核ミサイル開発などを利用した

安倍政権の日米軍事同盟強化の動きのなかで、アジアで軍拡と緊張の悪循環をどう乗り越えるかをめぐり討論がおこなわれました。

基地のない平和な沖縄をめざす参議院議員の伊波洋一さん、中国との領有権問題と米軍基地強化に直面し、平和運動をすすめるフィリピンの著名な研究者で活動家のウォルデン・ベローさん、日本 AALA から国際部長の田中靖宏さんの3人のパネリストが発言。伊波さんは「米軍新基地建設や石垣島や宮古島に自衛隊のサード（高高度ミサイル発射基地）を建設している。戦場となることを想定した演習もしている。米軍はそれに関与しないで、中国にア

ジアの同盟国を対峙させようとするものだ」と批判しました。ウォルデン・ベローさんは、「米軍が推進する『アジアへの旋回』戦略は、米、日、韓、フィリピンの軍事演習強化となって表れている。米軍と米軍依存の支配層が推し進める力のバランス体制は、紛争を解決するのではなく紛争を起こすものだ。日米軍事同盟や米比防衛協力強化協定を終わらせ、新しいアジアのための新しい体制と構造をつくらう」と述べました。日本 AALA の田中靖宏さんは、「中国と北朝鮮の脅威だけを見ずに、世

界を見渡すと、中南米では、反共的な反キューバ政策や対立を持ち込んで利益を獲得しようとする連中を追い込んで平和の方向に進んできた。アジアでも ASEAN を中心に体制や文化の違う国々が協力し合う条件が広がっている」と述べ、東南アジア諸国を訪問して対話を広げている活動を紹介し、「東アジア共同体」をめざす展望を語りました。国際シンポジウムには、各県の AALA 組織から多くの参加がありました。

（日本 AALA 常任理事 松井幸博）

軍事力「神話」から脱出して

日本平和大会に参加して

日本平和大会の国際交流シンポに参加したフィリピンのウォルデン・ベロー氏の話は2つの点で印象的だった。

1つは、米軍の駐留が70年間アジアの平和を守ってきたというのは、使い古された「神話」だという点。実際は、米軍がアジアに対立をつくり出して自らの覇権構想を追求してきたのが真相だ。自身を地域の安定に欠かせない外部の力と描きだすことによって、アジアの人民たちが平和的な隣人として暮らす地域的な構造を自らつくり出す努力をしないですむ口実を与え、妨げてきた、という指摘だ。北東アジアの平和構築を「米主導に任せるのではなく、自らの原動力をもつアジア諸国同士」でつくりあげようと訴えた。

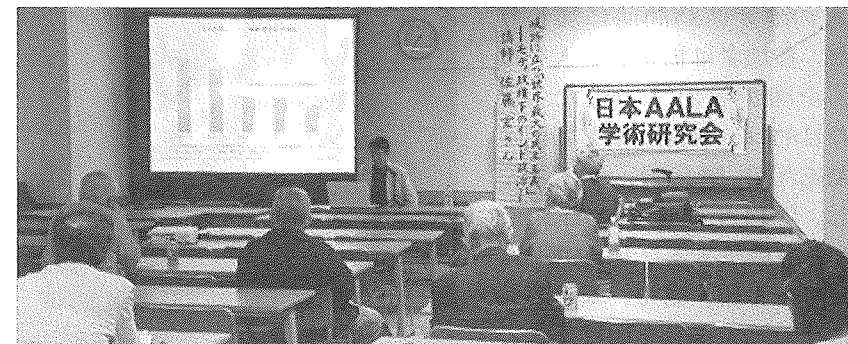
もう1つは、この米戦略に協力しているのは、日本でもフィリピンでも過去の戦争加担の罪を免れ米軍によって救済されたエリートとその係累たちで、一般民衆の精神や歴史観とは一致していないという指摘だ。

安倍政権は新安保法制をアジア諸国が支持していると宣伝したけれど、歓迎しているのはアキノ前大統領らエリート層であり、かつて日本軍の支配と弾圧の犠牲になった民衆とその家族は、決して過去を忘れず、日本が海外で再び軍事的な役割を果たすことを警戒していると、ベローさんは強調した。2つともアジアとの交流を進めるうえで根本となる認識だと実感した。

（国際部長 田中靖宏）

どこへ行く モディ政権のインド

佐藤宏氏が東京で講演（10/13）



日本 AALA として久々となる講演会を、南アジア研究者である佐藤宏氏にインドをテーマにお願いしました。佐藤氏には機関紙4月号と7月号でインドの内政および外交政策について執筆していただきました。今回の講演、「岐路に立つ『世界最大の民主主義』—モディ政権下のインド政治—」では、その後の新しい情勢も加えつつ、豊富な写真や図表を駆使してビジュアルで分かりやすいお話をしていただきました。

佐藤氏は、独立からモディ政権誕生までのインド政治の概要に触れたあと、モディ政権を大国主義、成長至上主義、ネオ・ヒンドゥー至上主義にもとづく強権政治と特徴づけ、その政権を支える集団としての「民族奉仕団（RSS）」の危険性についての詳細に説明。政権に対峙して立ち向かう人びとの運動を紹介することで話を締めくくりました。そこから浮かびあがってくるのは、「日本会議」をバックとする安倍政権とのあまりの類似性でした。

すばらしい内容の講演会でしたが、平日の夜ということもあって参加者が限られたのが残

念でした。地方にお住まいなどで参加できない多くの方のためにも、今回の講演をまとめたものを『日本 AALA 理論情報誌（第6号）』としてお届けしたいと準備中です。

佐藤氏はベンガリー語を駆使し、元々ベンガル地域を専門とする研究者です。当日、時間があれば7月のダッカでのテロ事件の背景なども語っていただきました。10月20日発行の『季論21』第34号（本の泉社）に佐藤氏の論考、「バングラデシュのイスラム過激派テロ事件—その衝撃と背景—」が掲載されています。ぜひそちらもあわせてお読み下さい。最後に佐藤氏が訳した本の紹介です。いずれも大著です。

『議論好きなインド人』アマルティア・セン著／佐藤宏共訳（明石書店 2008）
* A. セン氏はハーヴァード大学教授で1998年ノーベル経済学受賞の経済学者。
『インド現代史上・下』ラーマチャンドラ・グハ著／佐藤宏訳（明石書店 2012）
（学術研究部長 河内研一）

ラオスを知って日本を変えよう

栃木で報告会開催

9月22日から28日まで、日本AALAのラオス訪問団に加わりました。参加者は栃木の3人をはじめ、全国から21人でした。ツアーの目的は、東南アジア諸国連合(ASEAN)議長国、ラオスを訪問し、2014年に日本AALAが提起した「戦争するな!どの国も、東アジアを平和、協力、繁栄の共同体に」の国際署名を届けることです。

首都ヴィエンチャンにある人民革命党の建物内でラオス平和連帯委員会会長のカンパン氏とお会いしました。カンパン氏は駐仏大使や通商次官の経歴をお持ちの方です。田中靖宏団長が日本AALAの活動を紹介し、カンパン氏がラオスの概要、安全と経済成長、環境保護について2016年の5カ年計画で貧困解消と国際関係を重視していると話しました。懇談の時間に、私も「昨年末にアセアン共同体が誕生しましたが、その後の進展状況はどうか」と質問しました。答えは「すすんでいない」とのことでした。最後に全国からの国際署名1万4500筆をカンパン氏に託しました。

ラオスについて概観します。1899年ベトナム・カンボジアと共に、フランスの植民地とされ、1945年3月、日本が進駐したものの終戦により再びフランスがラオス全土を掌握。50年8月13日臨時抗戦政府を樹立し、独立、統一のラオス、連合政府の樹立、企業の国有化、ベトナム人・クメール人両民族との団結など「ラオス革命12大政策」を発表。54年インドシナ休戦(ジュネーブ条約)締結後、55年米国が介入。米軍は68年ベトナムへの北爆停止後、ラオス解放区の破壊に空軍力を集中。抗米救国闘争は、愛国戦線の



全土解放で75年、全国人民代表大会をひらき、「ラオス人民民主共和国」樹立を採択。武力による政権奪還ではなく中立派を含む平和的移行でした。いまもラオス人民革命党による一党政治、民主集中制をとっています。

訪問団が訪れたコープ(COPE)は、保健省とNPOによる施設で、クラスター爆弾の不発弾で手足を損傷した人やほかの障がい者のために義手・義足を製作し、リハビリをおこなっています。事務所の説明では、当時人口300万人いたラオスに300万トンの爆弾を米軍が投下したとのこと。

人びとは穏やかで勤勉さがうかがわれました。利用したホテルや



COPEセンターからお礼のメダルが送られました

親愛なる支持者のみなさん
COPEセンターの煉瓦の壁の写真を見て下さい。みなさんは壁の一部です。ご支援ありがとうございます。私たちのプロジェクトが大きくなり、もっと多くの人たちを助けられることは重要です。情報を求めるならばご遠慮なくご連絡ください。

COPEのすべての職員より
なお、ホームページは、
www.copelaos.orgです。

レストランでは、女性が両手を合わせて迎えてくれました。仏教徒が90%以上を占めている仏教国ですから親しみを感じました。最初の夜、レストランでは民族舞踊や楽曲を披露していますが、日本の曲も何曲か演奏してくれました。

ヴィエンチャンに3泊後、古都ルアンパバーンに2泊しました。世界遺産に登録されているだけに古い建物が道の両側にずらっと並んでいる様は、日本のどこかに似たところもありましたが思い出せません。

(栃木AALA理事長 日野川勇一)

北海道でも報告会開催

北海道は、毎月第4土曜夜に月例AALA教室を開催しています。10月は30日に道AALA事務所で開催しました。

内容は「ラオス訪問団報告」で、会員7人が参加。講師は北海道からラオスに派遣した片岡満事務局長でした。片岡さんは、まず写真で首都ビエンチャンのまち並み、人びとの生活などを紹介したあと、レジメにもとづいてラオス平和連帯委員会での

署名提出などの経過を報告しました。後半の意見交換では、東アジアでの平和の共同体づくりや、野党と市民の共闘などにも話がおよび、いい討論ができました。

今後は、署名をお願いした団体などへの対外的な報告活動にも積極的にとりくむこととし、11月13日には札幌平和委員会主催の「平和好き全員集合」で報告する予定です。



千葉

夢と希望ある
AALAの活動を



参議院選挙の結果を受けて、安倍政権は憲法改悪への道をひた走るのではないかと憂慮し、私たちの生活に密着した「憲

法のはなし」を千葉AALA機関紙に連載しようということになりました。日本国憲法がいかに現在の私たちの生活の基礎を支えているかを知ること、「自民党憲法草案」の問題点がより鮮明になるだろうと、AALA会員の弁護士さんが10回の連載企画案を立ててくれました。9月から好評連載中です。

ある会員はこのページをコピーして、地元の9条の会の学習会資料として活用しているそうです。また、ある会員は「チラシとして編集しおします」との記事に目をとめて取り寄せてくださり、まわりに広めているそうです。

AALAらしい活動をどう展開していくのか、会議のなかでたびたび話し合います。国際署名は今年は昨年よりも約500筆多く集まりました。とくに個人署名は、呼びかけた団体がまわりに呼びかけて広めてくれました。活動を積み重ねることで、少しずつAALAの存在や国際署名の意義が知られ、広まるのだと実感しました。

現在フィリピンツアーを企画中ですが、ツアーでつながった市民

長野

魅力ある企画で
会員を広げたい

長野県AALAは会員数が60人余の小さな組織です。一時期は80人ほどの会員がいましたが、このところは一進一退が続いています。ほぼ年間スケジュールが決まっています。地道に講演会や海外ツアーをおこない、それを契機に会員の拡大を図っているところです。

今年度もさまざまな企画を実施しましたが、通常は春に企画があるのですが、今年は参院選のため断念し、8月に慶応義塾大学の西大先生を講師に中国問題の講演会を開催しました。全県にチラシを折り込むなど宣伝に努めた結果、70人あまりのみなさんが参加しました。

西大先生の講演は、普段接することのない貴重な情報が紹介され、大変刺激的な内容で好評でした。すばらしい講演内容だったので、質疑を

含め3時間のDVDを作成し会員に紹介したところ、18の団体個人から申し込みがあり、財政的にも多少の貢献となりました。

時宜に適したテーマを設定し大胆な宣伝をおこなえば、成功することを実証する企画でした。こうしたとりくみと並行しながら、長野県AALA主催のキューバツアーの募集もおこない、県内を中心に8人から応募があり、10月30日から11月8日までキューバを訪問しました。参加者に感想を寄せてもらい、ニュースで順次紹介する予定です。

また、11月26日には日本AALA常任理事の高林敏之先生を招き、「アフリカの『非正規戦』につきすすむ日本」と銘打った講演会を計画しています。南スーダンへの自衛隊派兵の動きがあるもとで、アフリカの現状を知ろうという企画です。これらの企画を通じて会員の拡大につなげていくことが大きな課題です。

(事務局長 高村 裕)



団体にも広げていけば、東アジアの平和を連帯して推進することになるのではないかなど意見が出ています。このようなグローバルな視点で、夢と希望をもって活動していきたいと思っています。

(事務局長 上田敦子)

広島

「鬼郷」上映会に193人

映画「鬼郷(クイヒャン)」は、韓国・慶尚道で14歳の少女が突然、日本軍によって連れ去られ、中国にある日本軍「慰安所」で地獄を味わうという辛辣な描写だった。恐怖におびえる少女たちを殴り、蹴り、そして転戦するときにはみな殺しにして証拠を残さないという野獣化した日本兵を描く。しかし、私たちが「慰安婦」について

の知識からしても決して誇張されてはいないし、日本人として非難するようなものではなかった。日本兵の残虐さは、「慰安婦」に同情する日本兵が上官に殺される場面などに描かれていた。

この映画の上映に当たっては、日本軍「慰安婦」問題解決広島ネットワークや新婦人、日本コリア協会などといっしょに、私達は実行委員会に参加して、多くの日本人に見てもらおうよう訴えた。入場者は会場いっぱいの193人で大成功だった。この上映会には、韓国から映画に携わったスタッフや、主人公の在日の高校生や、日本兵役で出演された在日の青年たち7人も参加し、上映後にあいさつがあった。構想14年、7万5000人もの一般市民の支援によって完成



させ、300万人の観客を集めるとい
う大ヒット作になった。アメリ

カ、オーストラリアでも上映され
ているという。当時は植民地下で
日本語が強制されていたが、被害
者の女性たちの役は、韓国の高校
生たちが日本語を勉強しながら、
日本の人たちに見てもらってもお
かしくないようにがんばったそう
だ。

(事務局長 利元克巳)

おしらせ

●沖縄連帯 12・10 行動

12/10 (土)

13:30 ~ 15:00

日比谷野外音楽堂

15:00 ~ 銀座デモ

くらしに **ほっ** とコーヒータイム



オスパールコーヒー

お歳暮や年始に
ギフトセットをどうぞ

配送受付中

12/1より配送をはじめます

ギフトセットのコーヒーが
全 17 種類から選べます

3品セット: 3,370円 / 6品セット: 6,290円

たとえば、

*基本3品: マラゴジペ / キリマンジャロ / ブレンド

*基本6品: 3品+マンデリン / ブラジル / コロンビア

マラゴジペを値下げ!
12月・1月にお申し込みの方
1320円▶1000円になります

ご注文

■工場直通 FAX (049) 254-8158 / TEL (049) 254-6241
■日本 AALA ホームページ <http://www.japan-aala.org/>

わたしと

86



AALA

東京都AALA事務局次長
石井 隆

日本 AALA・東京 AALA の
発展を願って

私は、地域で野党・労組・団体・
市民の方々と力を合わせ、「戦争
法を廃止し、憲法9条を守ろう」
と運動をしています。

宣伝・署名活動をしていると、
北朝鮮のミサイル発射や核実験、

中国の海洋進出問題などから、日
本の平和と安全を守るには、日米
軍事同盟や日本の軍備増強が必要
ではないかの声の一部の方から必
ずあがってきます。安倍政権は、
朝鮮半島や南シナ海での軍事的関
与を強めている米軍と一体になっ
て自衛隊が軍事行動をするため
に「戦争法の発動」の準備を進め、
軍事衝突や戦争が勃発すれば日本
が攻撃されかねない道へと突っ
走っています。

今日、東アジアにおいて、戦
争をおこさず、諸問題を解決
し、平和と安全を守るにはどうし
たらよいかについて明示し、国
内外の多くの人が手をつなぎ運

動を強化することが急務の課題
となっています。このようなな
か、ASEAN 諸国が実践してい
る「紛争を戦争にしない。平和的
な話し合いで解決する」がまさに
重要になっていると思います。こ
のことを多くの国民に知らせ、日
本 AALA がすすめている「戦争
するな! どの国も 東アジアを不
戦、平和、協力、繁栄の共同体に」
のとりくみを、より多くの国内外
の人びとと力を合わせ強化してい
くことが求められていると思いま
す。

日本と東京 AALA の運動と組
織の発展を願い、微力ですが少
しでも役立てればと思っています。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA
SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第33 宮庭ビル 4 階

電話: 03 (5363) 3470 Home Page <http://www.japan-aala.org/>

FAX: 03 (3357) 6255 E-mail: info@japan-aala.org

振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行1部150円(送料62円)